

〔部門毎の方針〕（試案）

行政システムと人材育成

- ①各部門における、専門性を備えた人材の系統的・計画的育成システムの構築
- ②経験者の中途採用枠の設置（民間等より）
- ③専門職等の嘱託採用（退職後の、専門的知見を備えた方々等）

農業

- ①新しい形態の農業の保護・育成（従来型保護の問題点の見直し）
- ②新規就農者の受け入れシステムづくり
 - ↓
 - ③遊休農耕地の活用（市民農園、農園付き別荘・住宅など）
 - ↑
 - ④休耕地の整備・積極利用（景観の面などでの観光資源化）
- ⑤地域の質の高い農産品の都心部への販拡
- ⑥付加価値のある高級農産物の海外市場への販売促進（中国・台湾・韓国など）
- ⑦地元産品の地域での消費、食の安全・農家収入の安定化
- ⑧山林の整備と観光資源としての利用
- ⑨後継者対策（先行自治体の成功例に学び、意欲ある新規就農者の導入、現有農家からの農地貸付、全国的ブランドを確立した一宮農業の技術ノウハウの指導システム等の構築を図る）

環境・安全

- ①開発による農地縮小に歯止めをかけ、農地の保護に努める
- ②自然環境の保護・保全、自然と共生する景観の保護
- ③生活環境の整備：利便性と環境への配慮を両立させる
新しい形の土木工事の策定（一心を豊かに育み、持続可能な自然環境・生活環境を目指す）
- ④自然災害等からの安全施策（→環境保全とのバランスに配慮）
- ⑤防災・景観・歴史的に重要な松林の保全（松の木の里親制度導入）

福祉・医療・健康

- ①行政だけに頼らず、地域住民の組織によるサポート・互助。
- ②町-住民（団体）-業者、の連携と相互の負担などにより支出削減。
- ③元気な高齢者に、観光・文化・教育その他の場面に活躍してもらおう（生き甲斐作りと共に、ソフト面での地域の活性化への協力）
- ④食の安全・環境についての教育・啓発活動。
- ⑤高度な医療機関の誘致（私立の脳外科病院など）
- ⑥各地域における、班レベルでの、生活上各種問題をお持ちの高齢者の方々の状況の正確な把握と、その暮らしを支えるボランティアシステムの構築
- ⑦高齢者・子供のための生活道路策定と、バリアフリー化の促進

商業・工業

- ①空き店舗の再利用（姉妹都市・各一宮町の特産品の販売）
- ②玉前神社参道の活性化（観光客に魅力ある商店街の形成、統一された景観の整備-門前町の町並みのイメージ）
- ③旧道沿い商店街のバリアフリー化と歴史的景観を重視したイメージ作り（歩行者を優先した街づくり→消費者の商店街への誘導）
- ④海岸通りの、ハワイ或いはカリフォルニア・オーストラリアなどを中心としたイメージ作り
- ⑤エコ企業の誘致（リグニン関係の工場など）
- ⑥地元商店による高齢者対象のデリバリーサービス
- ⑦地元特産品の開発（有名ドライバーが使用したタイヤを使ったゴムぞうり・一宮張子（郷土玩具）などのアイデアを活かした新製品の開発）
- ⑧姉妹都市・関係都市の特産物の委託販売（ハワイ・桃源郷（武陵）・洞庭湖（岳陽）・鹿児島など）

土木・建築・基盤整備

- ①他部門の方針と協調してすすめるまちづくり
- ②地元の建設業者の方々への優先的な発注・きめの細やかな整備等（実用性・コストなどを重視した、脱“箱もの”的建設事業の推進）

観光

- ①観光資源としての地域の自然の見直し（海・川・里山の自然を重要な資源として確認し、たとえば一宮八景の選定等を行う）
- ②海岸周辺部の観光客に配慮した行政の補助事業（サーファーの方々も文化・観光の一翼を担う重要な一員としてとらえる）
- ③国内、海外自治体との連携（姉妹提携）による観光資源の拡大
- ④地域の自然ガイド…定期的な散策ツアーなど（自然愛好者・サーファー等によるガイドの育成）（→サーファーの方々などとそれ以外の住民の皆さんとの協働を進める。）
- ⑤利用されていない里山や遊休農地を使った、桃林・梅林・山桜・紅葉林などの創設と活用

歴史・文化

- ①地域の歴史文化を積極的に発信する。
玉前神社をはじめとする由緒ある寺社の文化的意義の再認識
加納久宜公（初代町長）の画期的業績の再認識とその継承（定期的な散策ツアー・学習会 →ガイドの育成、等）
- ②小中学校の教育内容にも、地域の歴史・文化に関する要素をより多く取り入れる
- ③旧別荘地としての一宮の認知の確保→高級感のある街（旧別荘地の面影をたどる地図作成など）（「旧★★氏別荘あと」などの看板の作成・設置）
- ④伝統建築・樹木など、町として後世に残したい物件の指定（壊したり、伐採する際は町と協議。保存維持の為に補助・募金等）
- ⑤空き店舗のギャラリーとしての利用（一宮在住の芸術家による個展など）

教育（学校・地域社会）

- ①ボランティア組織による放課後児童の育成。（高齢者の方々との交流活動等を通じて）
- ②福祉・文化等の事業との連携により、学校外教育の充実を語る。
- ③町民大学の開設（一宮在住の各方面専門家による講義・セミナー・シンポジウムなど）

〔町事業計画・まちづくりの基本方針〕

- ①町予算が縮小される事を前提に、しかも、サービスのレベルを落さない工夫（今後、大幅な人口増は見込めない→税収増は期待できない）（人口増は見込めないが、都会部からの意識の高い転入者の増加を働きかけ）（住民のボランティア等による協力、商店・各種事業者の方々と連携、協力）
- ②行政職員のサービスの質の一層の向上（細やかさ、透明性）。
- ③〔行政-町民-事業者〕の連携によるコスト削減と、サービスの質の向上（→町民のサポートによる事業内容の質の向上・コスト削減）（→町民も行政のみに頼らない環境作り…各種ボランティア活動等）（相互にチェックしてゆくシステム作り）（行政職員の方々も、一般住民とともに一町民としての意識を共有しながら、積極的に活動し地域に還元してゆく雰囲気作り）（住民サイドも、サービスは与えられるもの、というだけの意識の変革をはかる）
- ④各種事業・部門が有機的に連携する事によって無駄をなくす。（部門間の知識の共有と、各部門内での事例の研究等をすすめる）（縮小された予算枠で機能的に）
- ⑤歴史・文化・自然環境を背景にした、心豊かに暮らせるまちづくりをめざす（→町全体の質の向上をはかる。高級な別荘地・ベッドタウン）（→外房の避暑地、たとえば言えば鎌倉のような位置づけ、質の高い町のイメージへと転換）
- ⑥自然な人口移動に任せておくのではなく、計画的に良質の転入者（責任意識・参加意識の高い方々）を誘導する必要がある

〔一宮再生！まちづくりのイメージ〕

- ①町民皆が、明るく、開かれた意識を持つ町。
- ②生き甲斐をもって、互いに支え合う気持ちにあふれる町
- ③歴史・文化と自然環境に誇りを持ち続けられる町。

〔未来へ向けて、一宮をどうする！〕

〔キャッチフレーズ = イメージ〕

- ①意欲のある人々が集まり、住んでゆきたいと思える町
- ②互いに支え合い、暮らす、明るい町
- ③未来を語り合える町

〔対外的イメージ増進のために〕

(A) 国内屈指のサーフスポットをもつ一宮町は、実はこんな町！

おいしい農産物（トマト・メロン・梨など）
 豊かな自然（海・川・里山・国内有数の探鳥地点）
 歴史のある町
 （一宮城址・「東の大磯」とされる旧別荘地・古典にも記載される玉前神社）
 都心からほんのちょっとした立地条件（特急で東京から一時間）
 ・・・・など



**(B) サーフィン・サーファーという新しい要素も積極的に位置付ける形で
 現在の一宮を宣伝し、新しい一宮づくりの足がかりにする。**

（サーファーを支点として一宮を宣伝するという発想に転換する）



(C) 次にどこへ目を向けさせたらよいか？

自然が豊かな別荘地、ベッドタウン（自然・環境に配慮しながら）

(D) 町内部では、どのように変わってゆくべきか？

町の仕組みや、町民の意識・生活スタイルの変革をはかってゆく必要性

(E) 周辺市町村との関わり方は？

一宮の個性をより生かすため、協調して発展するために、
 部分的に隣接町村との連携のとれた活動
 → 観光・商業・農業・福祉・教育・・・などで部分的に合従連衡策